

「生き方によって選びを示す 恵みの管理者」

I ペテロ 4:8-13、イザヤ 53

■ 日本を愛する

内村鑑三（日本のキリスト教思想家であり聖書学者）の思想のひとつに、「二つの J を愛する」その「J」とは、「Jesus」イエス・キリストと「Japan」日本のことを指します。そんな内村鑑三が生きた時代、第一次大戦で日本という国を知った敵国将軍が、「この世には滅びてはいけないものが二つある。その一つは日本だ」と敵対する立場にありながら、日本という国を知り、記録にそのように残しました。戦時下、滅ぼしたいはずの敵国ながらそう言わしめたのは、日本人が歴史を重んじ、伝統を継承し、生活は貧しいが心は豊かで、国民一人一人が国を愛している、そんな民の心を見たからでした。その頃の日本国民の姿は、互いの情報を知り、思いやり、尊重し合っていました。当時の日本人が大事に思っていたのはナショナリズムではなく、そのような愛の姿勢です。自分はどうかあるべきか、どんな土台の上に立っているのか。私たちはかつての「Japan」日本人が大切にしていた心を学び、自由人としてどうふるまうか最善を選ぶために、「Jesus」イエス・キリストと同じ心構えていきたいのです。

■ リンカーン大統領

リンカーン（第 16 代アメリカ合衆国大統領）の友達が田舎からリンカーンに会いに、晩餐会に来た時、その友達はフィンガーボールの水を飲んでしまいました。教養のある人たちが集まっているところだったのでみんな心の中で笑っていたかもしれません。しかし、リンカーンはその友達の恥を覆うため、自分も同じくフィンガーボールの水を表情を変えずに飲みました。この瞬間、その友人を笑っていた人々はどうかだったのでしょうか？リンカーンの愛のある行動を目の当たりにし、良心がある人ならば、嘲笑っていたその行為を恥ずかしいと思ったのではないのでしょうか。正しい行いは自分に向けたときに周りの人を変える力があります。逆に正しい行いを人に向けたならば人を裁くことになります。このことを覚えておきましょう。

■ 知恵と知識

AI（人工知能）はすさまじい発展を遂げています。AI は新しい知識を得ることで成長する事ができます。人も機械も知識を得ることによって能力を高める事ができます。それは悪いことではありません。しかし気を付けなければなりません。パウロは「知識はあなたを無にする」と言いました。私たちは知識のためにではなく知恵のために学び、目的のために知恵が必要です。無駄な知識を、何の為であるかも分からず、いつ来るかもわからない時の為ただ安心するために蓄えていないのでしょうか？目的があるからこそ、その道順や手段を知識をもって探し、その最善の手段を選ぶために知恵がいるのです。自分にとって何の為なのか明確な目的がないと、隣の人と比較してしまいます。大切なのは、それぞれが志をもって目的を握り、知恵を得、それを生かすことなのです。

■ 愛は多くの罪を覆う（イザヤ書 53 章）

イエスは人知れず生まれました。有名ではありませんでした。蔑まれ罵られました。人は待ち望んだメシアを十字架に架けてしまいました。私達はこのようにズレた目線を持っています。「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。」イザヤ 53:4
「病を負い（母鳥が子どもを覆う姿）、「私たちの痛みをになった。（妊婦を表す）」というのは母鳥が「あなたの代わりに病や痛みを背負い、違う場所に移す」これがイエスキリストがなされた御業です。罪をすっきり「預け」、よそへ「移す」「隠された」という意味です。イエス様は十字架に従い、その捧げられた貴い愛によって、私たちの罪や痛みを覆い完全に取り去りました。その愛は一人一人を隔たりなく覆います。愛は隣の人の恥を覆うのです。私たちは近い人、そして自分にとって利益のある人のために愛を示し、覆うことはやっているかもしれませんが、しかし、一人一人にへだたりなく覆うことが大事です。神様は私たちの罪を愛の羽で覆い、母の胎の中で宿してください、問題があるところから問題がないところに移されるお方です。

■ 互いに熱心に愛し合う

そうであるからこそ私達は「つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。賜物を受けているから、恵みの管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」(I ペテロ 4:9) と言われています。①つぶやかす②互いに親切にもてなし合③互いに仕え合いなさい。互いに熱心に愛し合うためには①～③が大切です。恵みの管理者である私たちは自分の欲に飲まれるとズレてしまいます。何をすべきにも目的が大切です。欲は目的をずらします。「もてなし合う」ことが勿体ないと思ったのなら、自己中心になっている可能性があります。この自然界をみても自分から先に得ようとする生き

物はほとんどいません。先に蜜を与え、果物を与え、与えることで得るのです。

その真逆が「死海」です。死海は見た目はとても奇麗です。しかし、その水の中には生き物は一匹も生来ていません。栄養が飽和状態になり返って毒になってしまっています。

私達には恵みがすでに与えられています。しかしその賜物を用いなければ死海のように死んでしまいます。

■ 私達は賜物の管理者

「語る人」「奉仕する人」今日の箇所 I ペテロ 4 章には 2 つの賜物が出てきます。あなたはどちらですか。語る人は語る言葉によって人に大きな影響を与えてしまいます。神様の言葉にふさわしく語らないといけません。そして、その言葉は相手を制するために語るのではなく、自分を制するために語るべきです。そうすると相手も変わるからです。奉仕する人は自分の力でむりやり行うと実が残りにません。神様が備えてくださった力によってふさわしく奉仕することが大事です。語る人と奉仕する人は自分のことをよく理解し、相手のこともよく理解し仕え合うことが大切です。それはすべてがイエスキリストを通して神があがめられる為です。もしその事に心を向けるなら、あなたの全ての行為は絶対に無駄にはなりません。ペテロはこれらのことが出来るようになるために 12,13 節で「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかるのですから、喜んでいなさい。…」と語っています。自分の賜物が上手く管理できていなくても、神様はあなたを失格者とはしません。だからこそ比較や劣等感に陥るのではなく、試練に遭うときに私達は感謝し喜ぶことができます。「今こそ私が変わるチャンスだ！感謝します！」と向き合うか、悲劇のヒロインになるか、私達が選ぶのです。

■ キリストがあなたに生きる!!

私達を覆われたキリストか私達の中に生きるように人が何か間違ったとき指摘するのではなく愛そうとし、覆おうとしたときあなたのうちにあるキリストが人々に生きることを覚えてください。人々に私達の生き様をとおしてイエスキリストが生きるのです。

あなたのいのちは誰かの中に生きていますでしょうか？自分の存在理由をだれかに映そうとしていないでしょうか。それは違います。イエスキリストの生涯をもう一度しっかりとみましよう。あなたのいのちが誰かのうちに継承されるためには、どうしたらよいのか。考えて欲しいのです。「与える」ということがどういう事なのか。もう一度考えましよう。

イエスキリストは私達に生き方を示されました。豊かな現代に生きる私達はしっかりとその生き方を学ばなければなりません。人々を良くするには自分がその生き方を実践し示すしか方法はありません。どんな痛みや過去があったとしても、キリストはそのすべてを負って下さいました。だからこそ、私達もすべてを覆うのです。右の手がしたことを左の手に知られないように、他の恥を人知れず覆うような生き方を選んでいく決断をしたいのです。

■ まとめ

ある一人の人が亡くなりました。そしてその人の臓器は、他の人に移植され一人のいのちが助けられました。亡くなった人が飼っていた犬は、全く面識のない人に走り寄りました。その犬は、面識の無い他人の身体の中に主人のいのちが生きている事を見たからでした。クリスチャンの生き方はこのようなものではないでしょうか？過去に殉教した信仰者たち、また歴史を動かした信仰者の生き方…。全くつながっていないように思うこともそうではありません。私達の元にまでその知らせは届いているのです。人の罪を覆い、恥を覆う事がイエスキリストがなされた愛です。しかし私達はそれを実践することはできません。ですが、今日信じます。裏切られたように思う試練があったとしても信じます。神は真実な方で必ず私達を守る方だからです。どうか神様の愛が豊かに私達の内に注がれますように。そして偽りの言葉を捨て良心によって決断することができますように。試練に遭うとき私たちは鍛錬され本来の姿に戻れるのです。だから、苦しいときは感謝をもって本来の姿に戻れることを期待します。イエス様は裏切られても、むちに打たれても、私たちの罪を覆うため十字架にかかりました。その姿を覚え、私達も愛を生き方を通して示していきましょう。

(要約者: 李 雋英)

(2021年6月6日)